

平成26年度

施策評価マネジメントシート(平成25年度の実績評価)

記入年月日  
平成 26 年 6 月 25 日

施策No.	政策名	魅力と活力のある産業社会づくり	主管課	商工観光課	主管課長名	中島 章夫
503	施策名	観光の振興	関係課	農林課、文化財課、都市整備課、企画課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口		千人	見込値			42,003	42,005	42,006	42,008	42,010	41,940
実績値					42,326	42,420	42,337	42,619	42,688				
見込値													
実績値													
的	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	四季を通じて観光客に訪れてもらう	①観光客入り込み客数	人	目標値			620,000	625,000	400,000	405,000	410,000	415,000	
実績値				380,500	614,800	385,500	333,600	367,100					
②上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数		人	目標値			6,000	10,000	11,500	12,000	12,000	12,000		
			実績値	12,607	11,842	6,716	11,573	11,605					
③真壁町並み(ひなまつり含む)客数	人	目標値			80,000	90,000	100,000	110,000	115,000	120,000			
		実績値	101,567	111,387	100,121	111,097	81,505						
④雨引観音客数	人	目標値			420,000	430,000	200,000	205,000	210,000	215,000			
		実績値	206,394	415,276	139,833	145,159	181,169						
成果指標設定の考え方	○四季を通じて観光客に訪れてもらうために、①観光客入り込み客数と、代表的な集客地②「やすらぎの里利用者数」③「真壁町並み(ひなまつり含む)客数」④「雨引観音客数」を指標とした。												
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の「1都、6県の人口」は、関東地区の人口。人口問題研究所推計から年別の人口を推計。 ・①観光客入り込み客数は、「茨城の観光レクリエーション現況」から。 ・②やすらぎの里利用者数は、やすらぎの里の利用者実績数を記入。 ・③真壁町並み(ひなまつり含む)客数は、観光客動態調査(行祭事・イベント調査の真壁のひなまつり) + 町並み案内ボランティア(年4回の合計)数を記入した。 ・④雨引観音客数は、観光客動態調査から。												

2. 施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○桜川市の歴史的文化的遺産や自然環境に誇りと関心を持ち、自ら学び、地域の観光資源の活用について考える。 ○来訪者に対する出会いの機会やおもてなしの心を育む。 ○地域のイベントなどに積極的に参加する。 ○来訪者に誇れる清潔で美しいまちづくりに努める。 ○観光を地域産業振興として育成していくことに対して、関心と理解を高めるよう努める。	○市民や観光客の意向調査に努め、つばえクスプレスや北関東自動車道を活用した観光振興施策を検討する。 ○市民に対し、桜川市の歴史的文化的遺産や自然環境に誇りを持ってもらう機会を用意し、観光資源を育成していくことに対して、市民の合意形成を図る。 ○筑波山周辺地域の行政機関との連携を強化し、地域情報のPR充実を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか?	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?
	○北関東自動車道を利用し、東北方面、1都6県から市内へ訪れる観光客増が見込める。 ○1都6県の人口は微増傾向にある。 ○団塊の世代が引退し、観光需要が増える。 ○健康づくりへのニーズが高まり、登山、ハイキング、サイクリング客が増加する傾向にある。 ○23年4月にバス路線が完全に廃止になった。 ○震災から3年が経過し真壁地区の歴史的建造物の修復がだいぶ進んできた。 ○茨城空港が開港し、路線も増便され観光客の増加が見込まれる。 ○流鏝馬競技会(4月上旬)が行われるようになった。 ○山桜や桜川のサクラが雑誌や新聞、テレビで取り上げられるようになり、観光客もだいぶ増えてきている。 ○雨引観音の本坊(事務所、休憩室、宝物展示、展望室)が整備された。雨引観音では今後概ね10年をかけて、裏山をサクラ公園として整備していく予定。 ○筑波山地域ジオパーク推進協議会が設立され、地域振興策が増えた。 ○観光協会が平成25年5月31日に一本化され、ホームページも立ち上がり、観光・物産両面で市内外へ情報を発信していける体制が整った。	○住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、中位より下に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。 ○観光協会を社団法人化して体制を整え、観光を市の産業として位置づけるようにしたいという声がある。 ○議会から観光大使の設置や桜川市のB級グルメ考案について進めてはどうかという意見がある。

3. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①観光PRの強化・充実	市内を訪れる観光客	桜川市を知ってもらう	観光客入り込み客数	実績値	614,800	385,500	333,600	367,100			
				人							
②商工業の経営基盤強化	イベント、観光資源	イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらう	桜川市で行われているイベントへの参加者数、来場者数	実績値	153,000	142,500	162,000	135,500			
				人							
③石材業の振興	近隣自治体	近隣自治体と連携がとれ、観光資源のネットワーク化が図られている	連携している取組み数	実績値	3	3	4	5			
				事業							

4. 施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

施策のコスト	項目	単位	24年度実績	25年度実績	26年度予算
	①本施策を構成する事務事業の数	件	29	33	32
②施策事業費(一般財源以外)	千円	10,156	14,271	14,141	
③施策事業費(一般財源)	千円	38,589	39,626	46,209	
④施策事業費の計(②+③)	千円	48,745	53,897	60,350	
⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	21,724	20,346	20,032	
⑥計(④+⑤)	千円	70,469	74,243	80,382	

5. 施策に関連する主要事業等

関連する事務事業	区分	事務事業名	摘要
	主要事業		観光資源PR事業
事務事業		新たな観光スポットの構築	H25年度貢献度評価上位、H26年度優先度評価上位
事務事業		観光協会運営支援事業	H25年度貢献度評価上位、H26年度優先度評価上位
事務事業		上野沼やすらぎの里管理運営事業	H25年度貢献度評価上位
事務事業		真壁のひなまつり支援事業	H25年度貢献度評価上位
事務事業		観光パンフレット作成配布事業	H25年度貢献度評価上位
事務事業		御嶽山遊歩道管理事業	H25年度貢献度評価上位

施策番号	503	施策名	観光の振興	主管課	商工観光課
------	-----	-----	-------	-----	-------

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)①現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	

背景・要因  
 ・観光客入り込み客数は、23年度385,500人、24年度333,600人で、25年度367,100人で、23年度からは18,400人減少しているが、24年度からは33,500人増加している。要因は、観光客入り込み客数調査において、雨引観音の観光客数の増による影響が大きい。  
 ・岩瀬地区の上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数は平成18年度の14,606人から毎年減少しているものの、平成23年度の6,716人と震災による半減は別として、平成24年度11,573人、平成25年度11,605人とかわらうじて横ばいを保持。県内及び近県に類似施設があることが減少の原因と思われる。  
 ・大和地区の雨引観音は24年度145,159人から25年度181,169と36,010人の増。調査日の天候により多少左右されるが前年より増となった。  
 ・真壁地区街並み観光は、1,505人が真壁街並み案内パンフレットを利用した。  
 ・真壁のひなまつりについては昨年の11万人から3万人下回る約8万人が訪れた。臨時バスはTXつくば駅からは17日間で1,188人(昨年2,141人から953人減少)。JR水戸線岩瀬駅からは12日間で685人(昨年1,129人から444人減少)の利用があった。どちらも大雪などによる天候不順の影響が減少につながったと思われる。  
 ・北関東自動車道を利用して県北、北関東、首都圏から訪れる観光客が増加している。

1)②成果目標の達成状況

実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてが上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input type="checkbox"/> 目標値どおりの成果であった	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> すべての成果指標で目標値を下回った

背景・要因  
 ①観光客入り込み客数の25年度目標値は400,000人に対し367,100人で32,900人下回った。  
 ②やすらぎの里利用者数の25年度目標値は11,500人に対し、11,605人と105人上回り目標水準に達した。  
 ③真壁町並み(ひなまつり含む)客数の24年度目標値は、100,000人に対し81,505人と18,495人下回った。  
 ④雨引観音客数の25年度目標値は200,000人に対し181,169人で、18,831人下回った。  
 ・桜川市全体の観光客入り込み客数は観光客動態調査によると雨引観音の来訪者が影響している。  
 ・桜川市内で行われたイベントへの来場者数は136,500人であり、前年より25,500人減っている。天候不順による真壁のひなまつり来訪者の減が要因となっている。  
 ・近隣自治体と連携している取り組み数は4事業から5事業になり前年より1事業増えた。

2)他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いか低いのか、その背景・要因は?)

実績比較	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体とほぼ同水準である
	<input checked="" type="checkbox"/> 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 他の自治体よりかなり低い水準である	

背景・要因  
 ・平成25年度における茨城県の入込客数(延べ人数)は4,806万人(前年比1.8%増 平成24年度は4,720万人)となった。  
 市町村や各観光施設で実施したイベントや企画展が例年に比べ好評であり、風評被害の影響から回復しつつあることから、平成24年度の入込客数を上回った。  
 なお、「観光入込客統計に関する共通基準(平成21年国土交通省観光庁策定)」の導入に伴い、平成23年度調査から暦年での集計となっており、平成22年度までの年度集計との単純比較はできないため、平成22年度の集計結果について月別に集計している観光地点を再集計した結果と比較すると、平成22年比7.3%減となった。  
 ・近隣市町村と比較では、桜川市が前年度入込客数333,600人から367,100人と33,500人の増。筑西市348,300人から313,800人と34,500人減。結城市88,600人から97,400人と8,800人増。下妻市987,700人から1,189,000人と201,300人の増。つくば市3,454,400人から3,316,100と138,300人の減。石岡市1,034,100人から1,086,000人増。51,900人の増となっている。桜川市がわずかに増加した要因としては、真壁のひなまつりでは8万人と前年を3万人上回ったが、雨引観音を含むその他の観光地への入込客数が増加したためと思われる。  
 筑西市とは同水準であるが、結城市はなぜか他の自治体と比較するとだいぶ少ない。下妻市は砂沼サンビーチの集客が大きい、つくば市は人口規模が大きく違うので比較にならないが参考のため記載した。石岡市は果樹園へとフラワーパークへの来訪者が多いと思われる。  
 ※平成25年度 茨城の観光レクリエーション現況から記入した。(6月下旬発表)

3)住民の期待水準との比較(住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか)、その他の特徴は?

実績比較	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり高い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の期待とほぼ同水準である
	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	<input type="checkbox"/> 市民の期待よりかなり低い水準である	

特徴・背景  
 ・住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、平均よりどちらも低く、要注意項目に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み(事務事業)の総括

前年度の取組状況と課題	・25年度において重点的に取り組んだ対象地区は、市外、県外(1都5県福島)で、イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらうことをに重点的取り組んだ。貢献度評価の結果、貢献した事務事業は、「観光協会運営支援事業」「上野沼多目的運動広場管理運営事業」「上野沼やすらぎの里管理運営事業」「真壁のひなまつり支援事業」「御嶽山遊歩道管理事業」「観光パンフレット作成事業」「新たな観光スポットの構築」「県自然歩道利用促進協議会参画事業」が施策の成果向上に貢献した事業といえる。 ・「観光協会運営支援事業」は市補助金6,000,000円を受け、岩瀬地区ではさくら祭り、納涼大会、ヤマザクラ見学者の受け入れ、大和地区ではあまびきの里彫刻2013、大和流籠馬競技大会、真壁地区では真壁のひなまつり、真壁祇園祭、かたて祭りなどの支援を行いました。また観光協会独自のホームページの作成を進め、平成26年7月1日にオープンしました。今後はこのホームページを有効に活用し、観光PRや情報発信を進め、観光、物産両面の強化を図ります。 ・「上野沼多目的運動広場管理運営事業」は上野沼やすらぎの里キャンプ場内にある施設で、施設利用者のうち約1,000人がサッカー、野球、ソフトボールなどを楽しみました。また11月24日開催のイベント森コミの駐車場としても有効に活用しました。 ・「上野沼やすらぎの里管理運営事業」は年間1,1605人のお客様がケビン、オートキャンプ場、バーベキューサイトを利用し、余暇を楽しみました。また施設を利用した初のイベントとして11月24日にクラブト市、ミニコンサート、軽食などを中心とした「森コミ」を開催し約5,000人が来場しました。 ・「真壁のひなまつり支援事業」は真壁のひなまつり実行委員会に対しての支援として、つくば市観光コンベンション協会、県観光物産協会、首都圏新都市鉄道(TX)、東武鉄道、関鉄バスと連携し、臨時バスの運行、ポスター、チラシ、ホームページによる広域的なPR活動を実施しました。また会場案内、駐車場整理等で商工観光課のほか市職員の協力を頂きました。 ・「御嶽山遊歩道管理事業」は、関東ふれあいの道のコースにもなっている遊歩道を、ハイカーが快適に散策できるようコースの整備を行いました。 ・「観光パンフレット作成事業」は、2種類のパンフレットを追加作成し、既存のパンフレットも含め市内の観光拠点、施設へ設置しました。また近隣自治体と連携し、キャンペーン等でも配布しました。 平成25年度追加作成・・・桜川市観光案内パンフレット30,000部 桜川市ハイキングマップ20,000部 ・「新たな観光スポットの構築」は、地元住民、観光協会、市民団体と連携し、高峯のヤマザクラの受入体制を支援しました。 ・「県自然歩道利用促進協議会参画事業」は、茨城県と相互に連携を保ちながら一体となって首都圏自然歩道(関東ふれあいのみち)の利用を促進し、県民の自然への理解を深め、自然保護思想の高揚を図りました。毎年10月中旬に実施されているIBARAKIウォークフェスティバルには全体で約230人が参加。桜川市からも約28名が参加しました。 ・その他の事務事業では ・「漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業」は、テレビ放送等宣伝事業で真壁のひなまつりと、蔵部稲村神社が磯山さやかの旬刊いばらきで放映された。また、地域支援事業として広域ブロック観光宣伝支援事業の協賛を受け筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業において、臨時バス(真壁のひなまつり号、筑波山梅まつり号)運行に伴うポスター、チラシを作成し配布した。 ※筑波梅林とひなまつり周遊バス運行事業 → 事業費548,100円 桜川市観光協会150,000円 つくば市観光コンベンション協会150,000円 漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会248,100円
-------------	---

8. 今後の課題と方針

区分	今後の課題	今後の方針
施策全体	・北関東道やつくばエクスプレス、茨城空港等新たな交通インフラを利用した観光客の増加に寄与するため、既存周辺施設を利用した観光PRを検討していく必要がある。 ・新たな観光資源に関わる市民団体との連携・支援の検討を行っていく必要がある。 ・観光資源への交通手段の確保についての検討が必要である。 ・観光客数は増加傾向にあるものの、地元への経済効果についてはまだ不十分であるため、今後は観光振興の取り組みによって、経済効果をもたらす方策の検討が重要である。	・水郷筑波国定公園・笠間県立自然公園の指定を受けている豊かな自然環境、国の天然記念物・名勝指定の「桜川のサクラ」や里山のヤマザクラ。約100軒の登録文化財を有する真壁の町並み、多くの観光客が訪れる雨引山等の歴史・文化的遺産を活かし、観光が桜川市へ経済効果をもたらす地域となるよう育成・強化を図ります。 ・既存の観光拠点の整備拡充を図るとともに、イベントの見直しや再構築、観光宣伝の強化により、人と人とのふれあいを大切に滞り型の観光地の形成を図ります。 ・つくばりんロードや北関東自動車道の活用、さらには筑波山周辺地域自治体との連携により広域観光の開発に取り組みます。
基本事業	①観光PRの強化・充実 ・桜川のサクラ(蔵部桜川公園、蔵部稲村神社、高峯のヤマザクラ、雨引観音、つくし湖)等の市内観光スポットへの受入体制整備やPR方法、桜まつりの運営方針についての検討の必要がある。	・市観光協会のホームページや観光パンフレットによる情報発信をさらに進め、観光、物産両面を強化していくとともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRの充実を図ります。
	②観光資源の充実・開発 ・市の玄関口である岩瀬駅前への観光案内所の設置やレンタサイクル事業の開始。	既存の観光資源の受入体制の整備と相互の連携をさらにすすめ、新たなイベントの発掘や観光資源の充実を図ります。また、実際に地域活性化事業に取り組んでいるイベント主催団体、市民団体との連携を密にし、積極的に支援していきます。
	③近隣自治体との連携 ・筑波山地域ジオパーク推進協議会で計画している事業(講演会、パネル展、パンフレット配付、ホームページによるジオサイト紹介等)を推進していく。	近隣自治体が入り込んでいる協議会を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、市のイメージアップへとつなげます。また観光資源のネットワーク化を進め、通過型から滞在型に移行できるよう努めます。